

予防血液浄化療法 up date

第 33 回日本アフェレシス学会学術大会 参加・発表報告

2012 年 11 月 8 日～10 日に長崎ハウステンボスユトレヒトプラザ・会議室に於いて第 33 回日本アフェレシス学会学術大会が行われました。

「伝統の継承と技術革新に向けて」というテーマの下に、140 演題の発表が行われた中で、当院の予防血液浄化療法に関する研究報告は「特別シンポジウム」として採択され、当日は「アフェレシスの夢を語る」特別企画のセッションで発表させて頂く場を得ました。

学会では、より安全に治療を行うための「標準化」に焦点をあてたセッションや「移植」を始めとする最先端の医療に用いられる血液浄化の技術についてなど、様々な演題が発表され活発な質疑応答が繰り返されるなど盛況でした。

ハウステンボスのシンボルタワーの中にある大コンベンションホール、ユトレヒトプラザで行われた特別企画は、当院からの発表以外に「維持透析患者の心血管イベント抑制を目指した血中 HMGB1 除去治療・国立病院機構大阪医療センター腎臓内科 倭 成史先生」「高効率免疫吸着療法・東京大学医学部付属病院血液浄化療法部 花房規男先生」「ネフローゼ症候群に対する LCAP の可能性・金沢大学付属病院血液浄化療法部 古市賢吾先生」「老化遅延のためのアフェレシス～血漿献血の可能性・北海道大学大学院情報科学研究科生命人間情報科学 村林俊先生」が採択されており、いずれも血液浄化療法の技術をどう将来の夢の医療に生かせるか、といった視点で研究成果の発表があり、大変興味深い内容でした。

当院からの発表では、約 15 か月間における治療成果とお受けになられた方々から得たアンケート結果、そこから分析される予防血液浄化療法の有用性についてご紹介しました。日本透析医学会理事長・日本アフェレシス学会理事である秋澤忠男先生と今回の学術大会の大会長である松尾秀徳先生の司会進行で勧められた発表は、治療費用についての質問もありましたが、好意的なご評価を頂きました。また、日本における DFPP 二重膜濾過法（当院で取組んでいる血液浄化の種類）の技術を確立されたドクターからも好意的なご意見および「これからも、もっといろいろなデータをとって成果を発表して下さい」とコメントを頂きました。

当日は特別企画のセッションのみ会場からの投票の対象となっており、北海道大学村林先生御発表の「老化遅延のためのアフェレシス～血漿献血の可能性」という研究が賞を得ました。献血の際に用いられる血液浄化の技術が老化予防になるのではないかという、大変ユニークな視点での御発表で、会場からも質

問やご意見が多数得られ、将に血液浄化療法の夢を語る内容でした。

学会期間中に、韓国ソウル大学の血液浄化療法部門の責任者を務められるハン教授と会合の機会を得ました。ハン教授はソウル大学において主に移植における血液浄化療法に取り組んでおられますが、今回自主研究として喘息とアレルギー性疾患に対する血液浄化療法での治療を開始されました。当院でもアレルギー性疾患は予防血液浄化療法の治療対象としておりますので、いろいろ意見交換を行いました。韓国でもよい成果がでているようで、研究結果が期待されます。